

寄稿文

～ 地方再生は Uターン・Iターンに加えて 関係人口の活用で ～

福岡可愛山同窓会副会長 井上 哲 (高20期)

国の人口統計調査では12年連続で減少している。全国各地で人口減少や年齢構成の偏りが続く中で地方再生が言われて久しい。

国や自治体も人口減少に歯止めをかけるべく、子育て支援や定住促進等を始めとして様々な施策を打ち出し努力している。しかし人口減少が明確になっている中で、定住人口増という量での地方再生の対応には限界がはっきりして来ている。

さて東京23区(区部)平成27年の夜間人口は約927万人に対して、昼間人口は約1,203万人である。その差約276万人/日は何らかの理由で各地から来て、継続的に東京23区(区部)の人口が増えていることになる。これは経済効果・様々な刺激・文化・自治体の機能の維持など定住人口が増えた事と同じである。

福岡市では、少し古い数字だが夜間人口約138万人に対し昼間人口157万人で19万人増。では薩摩川内市、平成27年夜間人口96,076人(令和3年4月は93,119人に減少)対し昼間人口97,033人である。昼間は957人/日の増加になる。これは定住では無いが一過性でもなく、この約1,000人/日という一定数が必然性を持って継続的に日々市内に存在している。これが関係人口である。

例えば市内には九電関係の諸施設がある。その維持保全には一定の技術と人数が必要であるが、市内での充足は難しいところがある。そこで市外から人材の継続的な関わりが求められる。関係人口である。更には九州新幹線の駅は12駅であるが、博多・熊本・鹿児島中央はさて置き、一日当たり利用者数は久留米に次いで川内である。これには鹿児島との往来も含まれるが、この利用者数に外部からの継続的な人口が一定数現れている。

市内の諸資源(例えば甕島・川内川あらし・蘭牟田池・入来麓など。更には新規事業も)の更なる活用推進のために、また将来に向けた再構築のために必要に応じて外部に人材やノウハウを積極的に求める。人口減少やその年齢構成が一定の安定を見るのは20年・30年先になるであろう。そこに向けて、過渡期のいま外部の人材・知見を継続的に活用して、人口数に左右されにくい新しい「せんだい」にソフトランディングさせるために関係人口の活用である。そしてその先には、新たな「せんだい」にUターン・Iターンが増えるであろう。

故郷せんだいを離れて、多くの歳月が流れた。しかし、母校川内高校をはじめ、せんだいへの想いは尽きない。

御感想・寄稿文 お寄せください スマホQRからも投稿できます。

投稿先QR

左側のQRを読み込んでください。福岡可愛山同窓会ホームページコミュニケーションボードに接続します。



必要事項に入力したら、最後に「送信」ボタンを押していただき完了です。

<https://hosias.com/contact/enoyama/>

従前の寄稿文は、この下のQRコードをスマートフォンで読み取り、表示されたURLを開くと、お読み頂くことができます。



従前の寄稿文を
読むQRコード

郵送・パソコン/FAX からも受付けております
FAX 092-510-1366

2022総会・懇親会

7月3日(日)

会場他決まり次第
御案内します。

【編集後記】

当初10月には発行の予定でしたが、仕事の合間に時間を見つけての作業で、皆様のお手元にとどくのが遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

今回、抽選会ほか初めての企画に取り込みましたが、いかがだったでしょうか。

是非とも**投稿先QR**の方から、ご意見ご感想・寄稿文、ご趣味近況等お寄せくださいませ。ハガキや封書など、従前からの方法でも大歓迎でございます。

ご郵送の場合、第一面タイトル部の会長住所あてに どうぞお送りください。

次回、来年**7月3日(日)**を予定しております。是非予定を空けておいてくださいませ。それでは、皆様お元気で。また来年お会いしましょう。副会長 寺脇 之博 (高34期)

